

令和2年2月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年2月17日（月）午後1時40～午後2時00分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
NCV、置賜日報社

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 記録的な小雪に対し、経済（観光を含む）、農業分野への市独自の対策はありますか。
- (2) 米沢ブランド戦略に対し、市役所として取り組む具体的な項目はありますか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは定刻となりましたので、令和2年2月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。質問の一つ目は「記録的な小雪に対し、経済（観光を含む）、農業分野への市独自の対策はありますか」というものでした。

今年の冬は雪が少ない状況であり、雪国米沢としては、例年、大雪の中で生活を営んできております。そういった中で、冬場の経済というものも雪で回ってきたという部分もありますので、いろいろな影響を受けていると考えております。具体的に経済、観光を含むということではありますが、中小企業の経営安定のために融資制度を利用される方については、3月から利子補給を開始したいと考えております。1.6%の経営安定資金の利率のうち、1%を市で補助するということにしたいと思っております。

また、除雪の委託業者であります。除雪委託費については、1月末時点で例年の約4%になっております。また、除雪補償料については一部を前倒しさせていただくことにしました。補償料は全体の除雪が完了した段階で、5月に全支払いをしておりましたが、補償料の30%程度を2月末に支払う予定にしております。また、債務負担行為で降雪期に工事ができないでいた訳ではありますが、今年はこのような状況でありますので、こういった債務負担行為の工事につきましては早期発注をしたいという

ことで、早ければ2月下旬に早期発注をして、事業所の工事に対する支援もしていきたいと考えているところであります。具体的な支援対策は今申し上げたところであります。

農業分野においては、寒中野菜関係、雪菜やキャベツ、ネギ、白菜もそうですが、こういったものは降雪が少ない影響を受けております。特に雪菜は1月で終了してしまいました。例年ですと、今の時期までなんとか販売していたのですが、米沢の冬の伝統野菜である雪菜については、例年の20%程度の減収となっています。逆にハウス栽培等の施設園芸については、暖冬の影響で燃料費や除雪経費が削減されたということもあったようであります。

続いて、二つ目の「米沢ブランド戦略に対し、市役所として取り組む具体的な項目はありますか」という質問についてです。米沢市役所も TEAM NEXT YONEZAWA の一員として登録しております。この庁舎内部において、プロジェクトチーム10名ほどでワークショップを重ねております。現在の具体的な内容としては、市民の立場に立った分かりやすい、丁寧な情報発信をしていくということで、市民目線のシンプルな情報発信をしようということ、「来てください」ではなく職員が「行きますよ」というスタンスを取るということで、検討をしているところであります。

今まで TEAM NEXT YONEZAWA のプロジェクトチームというのは、各部から担当者が集まって開催しておりましたが、横断的な話もあり、どうやって取り組んでいくかということについては、迷っていたといいますか、なかなか取り組んでいけない部分もありました。この TEAM NEXT YONEZAWA のプロジェクトチームについては、市長直属として、今後どのように進めていくかということを考えていきたいと考えております。何よりも重要なのは、新たに市役所も建設されますので、市民サービスをより向上させていかなければいけないということが、市役所としてのブランド戦略であり、職員の住民サービスへの意識を磨き上げることが第一義であると考えております。

また、具体的な部分については、持続可能な地域づくりということもありますので、新年度になったら各部毎に持続可能な開発目標というものをどう進めていくのかということについて、しっかりとした対応をさせていきたいと思っております。どのような形になるかですが、それぞれの部と市長との契約的なものにしていきたいと考えながら、市役所に気軽に来ていただけるような、その中で職員の意識も磨き上げていくということが必要だろうと思っております。本来の住民サービスあるいは、これからの時代がどう動いていくのかということも見据えて、それぞれの部局の進め方について、取り組む姿勢を磨き上げていきたいと考えております。

○秘書広報課長

質問に対する市長の回答は以上となります。ここからは幹事社を中心に質疑応答をお願いします。

○記者

ブランド戦略について、市長直属というのは何か組織を作るということですか。

○市長

組織はできています。

○記者

配置図とか組織図ということではなく。

○市長

そういうことではありません。

○幹事社

他にいかがでしょうか。

○記者

新年度予算の時に聞き漏らしたので確認ですが、屋内遊戯施設のことで新年度中に方向性を付けるということですが、その方向性というのは、今ある「もくいくひろば」の拡充というのも可能性として入るのか、あくまでも違う場所に作るのかどうなのでしょうか。

○市長

この間も申しあげましたように、単独施設です。

○記者

分かりました。

○記者

副市長人事について、3月議会に提案ということで聞いていたのですが、現時点でいえることはありますか。

○市長

ありません。

○記者

その他についてですが、新型肺炎関係について、いつ山形に来てもおかしくないなという状況の中で、今考えている対応などを教えてください。

○市長

何日か前に、県で新型肺炎に対する会合があったようです。その後、個人的に置賜保健所長にお会いする機会があり、どう対応していったら良いかということをお話ししましたが、その時には新たな感染は広がっておらず、大げさに騒がなくても良いのではないかという話でした。ですので、その段階での対策本部立ち上げは考えておりませんでした。

しかし、今日のような状況になってきており、県も対策本部を立ち上げました。それから1、2日経ってから県の対応が変わったということもあったようですから、この状況を考えてみますと、山形新幹線も通っており、感染ルートがはっきりしておらず感染している方が多くなっているという現状もありますので、山形県に入って来ないということも分かりませんので、単なる情報共有ではなく、何らかの対策本部的なもので、市民への周知について今後取り組んで行きたいと考えております。

○記者

今のところ具体的な段階までは進んでいないということですか。

○市長

そうですね。他の自治体同様、対策本部を立ち上げ、情報を共有しながら住民の皆さんにも注意喚起をしていきたいのですが、どの程度の対策本部になるのか、あまり大げさに考えてもどうなのかという部分もあります。ただ、しっかりと新型肺炎の情報は共有していかなければならないと思っております。そのための対策会議を行いたいと考えております。

○記者

対策会議は近々に開くのでしょうか。

○市長

そうですね。日にちはまだ設定しておりませんが、すぐにでも対応していきたいと考えております。

○記者

分かりました。

○記者

三井屋工業の企業誘致が新たに決まったことについて、また、これからの誘致に向けた思いなどを聞かせてください。

○市長

先日、県庁でお話しさせていただいた通りであります。山形県としても重要な分野としてとらえている自動車産業の企業誘致ということで、成長産業分野でありますので、米沢市としても、誘致できたことについては大変うれしく思っております。そして、三井屋工業の事業内容を見ますと、スマートファクトリー的なものを展開していくということと、もう一つは市内の企業とも連携していきたいというお話もいただきました。いろいろな分野と連携することで、市内のものづくり産業から付加価値の高い製品が出てくることを期待したいと思っております。

○記者

就任後の企業誘致は8社目になるのですか。

○市長

「こころの病院」も含めると8社目になると思います。

○記者

選挙中は6社といていたのが7社になり、8社になったということですね。

○市長

そうですね。

○幹事社

他に質問などある方いらっしゃいますでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、令和2年2月の定例記者会見を終了いたします。